

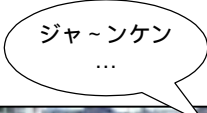





プログラム名	森のジャンケン						
対象年齢	年中 (4~5歳)						
ねらい	メッセージ	・自然物には無駄なものはないということに気づこう					
	発見・体感できること	・自然物が楽しい遊び道具になること					
参加者のめやす	幼児 5人×6グループ		/		支援者 2人		
実施時間	30分						
フィールド							
	森・社寺林・公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間	活 動			配慮・アドバイス アレンジ			
2分	グループに分かれる			あらかじめ人数分の自然物を用意しておく、室内でも実施可能です。 			
3分	各自が、ジャンケンのグー・チョキ・パーのうち、好きな種類を一つ決める						
5分	各自散策し、決めたジャンケンの手の形に見立てられそうな自然物の一つ拾って、グループに持ち寄る (例) グー どんぐりの実、石 チョキ 二股になった枝 パー 葉っぱ			ジャンケンの舞台用に白布や白紙を用意しておく、それぞれから出されたものを識別しやすくなります。  グー パー チョキ			
2分	ジャンケンに出場する代表選手と、一番最初に使うジャンケンの手の種類(自然物)を一つ選ぶ						

時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
<p>13分 (~ の 繰り返し)</p> <p>3分</p> <p>2分</p>	<p>3つのグループからの代表者計3名が、支援者の「ジャンケンポン」の合図で選んでおいた自然物を1つ、同時に出す</p> <p>勝ったチームは、出された自然物を全部取り、自分たちのものにする</p> <p>持っていた自然物が全部なくなったチームが出た場合や、制限時間を越えた場合はそこで終了し、残った自然物の数で順位を決める</p> <p>他に自然物を使ってどんなことをして遊べるのか話し合う</p> <p>使った自然物を元の場所に戻す</p>	<p> 「森のジャンケン」のルール</p> <p>あいこの場合 一度出した自然物を引っ込めて、再度使うことができる</p> <p>2チームが勝ち残った場合 自然物を新たに選び直し、そのまま対戦を続ける</p> <p>勝負の例：パー・パー・グーの場合 グーは負けたのでパーのチーム同士での対戦を見守り、パーを出したチーム同士で対戦する。最終的に勝ち残ったチームが、負けた2チームの持っている自然物をもらう</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>= ジャンケンのアレンジ =</p> <p>年少：「支援者と同じものを出せたら勝ち」というジャンケン</p> <p>年長：「負けるが勝ち」、一対一ではなく複数でジャンケンをするなど</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>拾った自然物（葉っぱ、枝、実など）を使って、生活に役立つ道具（写真立て、壁飾り、おもちゃなど）を作ってみましょう。</p> <p>気に入ったものが、時間の経過とともにどのように変化していくか話し合ってみましょう。 (どんぐりはどうなるの？、葉っぱはどうなるの？など)</p> <p>遊び道具として役立つものが、自然界では本来の役割（循環の一部）を担っていることへの気づきにつながります。</p>		
<p>準備物・ 教材等</p>	<p>・白布(集めたものを並べたり、ジャンケンの舞台に使う)</p>	

